

だから 心に力をこめて どついたるねん

AKAI

編集・監督：赤井英五郎 出演：赤井英和

映像協力：朝日放送テレビ 阪本順治 制作プロダクション：PADMA 音楽：上倉紀行 宣伝協力：大手広告 ミラクルフェイス
配給：ギガガ GAGA* 2022年/日本/カラー/16:9/5.1ch/DCP/88分 ©映画AKAI製作委員会

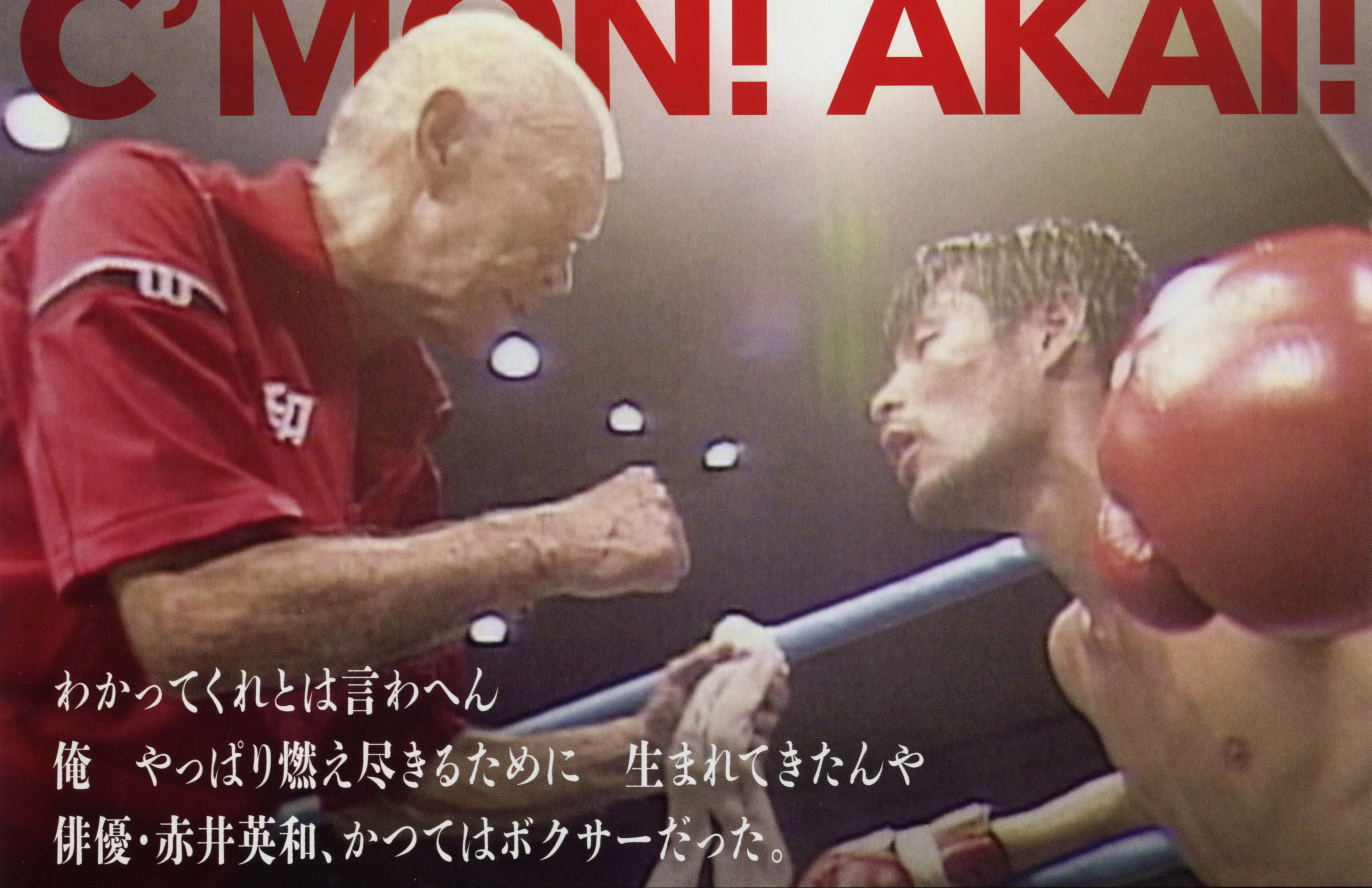
gaga.ne.jp/akai_movie

GAGA★

かつて日本中を熱狂させた、不世出の天才ボクサー赤井英和 あの激闘がスクリーンに甦る

Photo by 篠山紀信

C'MON! AKAI!



わかってくれとは言わへん
俺 やっぱり燃え尽きるために 生まれてきたんや
俳優・赤井英和、かつてはボクサーだった。



俳優、タレントとして、世代を超えて愛される赤井英和。しかし、まだ多くの人々が本当の“AKAI”を知らない。かつてはプロボクサー。1980年に鮮烈なデビューを飾り、戦績は21戦19勝16KO2敗、(※デビュー12連続KO(試合時間計72分)日本タイ記録)もっと前へ、もっと強く。ひたすら、どつき倒す。倒れても立ち上がる。その歩みを止めない、戦いを止めないスタイルは最高に強く、最高にかっこよかった。彼は本物のヒーローだった。そして、人々は大阪市西成区生まれの“AKAI”をこう呼んだ。「浪速のロッキー」と。

本人は純粋にボクシングを愛し、相手をどつきまくっただけ。その姿は40年の時を経た今も変わらない。本作は現役のプロボクサーで、アメリカで映像を学んだ赤井英五郎が監督を務め、赤井の俳優デビュー作『どついたるねん』(1989年)の阪本順治監督が全面協力。再起不能のダウンから復活を遂げ主演として自分自身を演じた『どついたるねん』と、世界王者に挑戦した「ブルース・カーリー戦」と引退の引き金になった「大和田正春戦」の息を呑む迫力の試合映像、貴重なインタビューでつづられる。

「ひとは、生きてさえすりゃ、おもしろいことあるよ!」と、
云われたかのような感慨と感動を覚えた。おかしみから始まり、
やがて哀愁へと綴られ、そして、赤井英和という漢の温かな懐につつまれる。
ひとつひとつが孤立し、いびつで不寛容な社会になってしまったいま、
最も観るべき最高の映画!

—— 阪本順治 (映画監督)



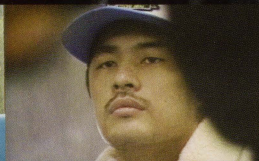
©1989 写真提供:リトルモア

映画『どついたるねん』

1987年に出版された赤井英和の自伝をもとに、阪本順治が監督・脚本を務め、赤井本人の主演で映画化したボクシングを題材にした日本映画。

AKAI

編集・監督:赤井英五郎
出演:赤井英和



映像協力:朝日放送テレビ 阪本順治 制作プロダクション:PADMA 音楽:上倉紀行 宣伝協力:大手広告 ミラクルヴォイス
配給:ギョガ GAGA★ 2022年/日本/カラー/16:9/5.1ch/DCP/88分 ©映画「AKAI」製作委員会

gaga.ne.jp/akai_movie @akai_movie

9.9(fri) ROADSHOW